

① 2020年末の大掃除実施率と掃除の理由

- ・コロナ禍で迎えた2020年末の大掃除実施率は53.6%、過去2番目に低い実施率に。
- ・コロナ禍で普段の掃除時間・頻度が増えた人ほど大掃除実施率が高い結果に！
- ・大掃除しなかった理由1位は「時間が無かった」。コロナ禍でモチベーションが下がったことも未実施の要因に。

2020年末の大掃除実施率は53.6%と、調査開始以来2番目に低い実施率となりました。実施率低下の要因は、**徐々に大掃除習慣が薄れている傾向とともに、今回はコロナ禍で普段の掃除機会が増えたことで年末に改めて掃除する人が減ったこと**が考えられます。しかし実施した人の内訳を見てみると、当社の過去17回の調査では、普段の掃除をこまめに実施している人ほど年末大掃除の実施率が低い傾向でしたが、今回は**コロナ禍で普段の掃除時間・頻度が増えた人の方が大掃除実施率が高い結果となりました**。普段の掃除が増えたことで大掃除をしなかった人がいた一方で、**衛生意識の高まりやコロナ禍での掃除経験を経て、掃除を前向きに捉える人が増えたことで、大掃除を念入りに取り組んだ人もいた**ことが分かりました。

大掃除した理由には「気持ちよく新年を迎えたいから」が1位に挙げられました。一方で**大掃除しなかった理由には「時間が無かった」「普段こまめに掃除している」が例年同様上位**でしたが、「**年末年始に来客がなかった」「今後いつでも掃除できると思った**」など、**コロナ禍による影響で年末大掃除のモチベーションが下がったこと**も大掃除をしなかった要因だと考えられます。

図1：大掃除実施率（過去5年）

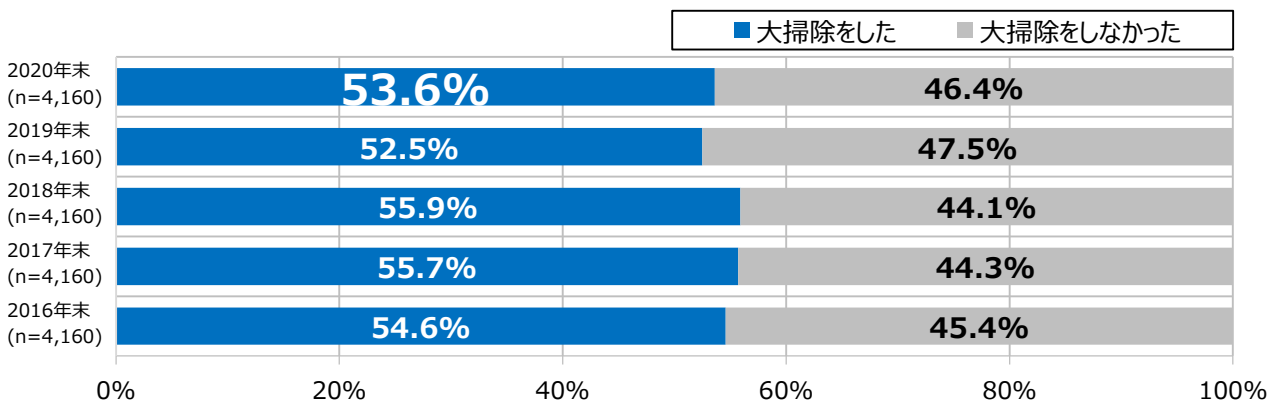


図2：大掃除実施率（属性別）

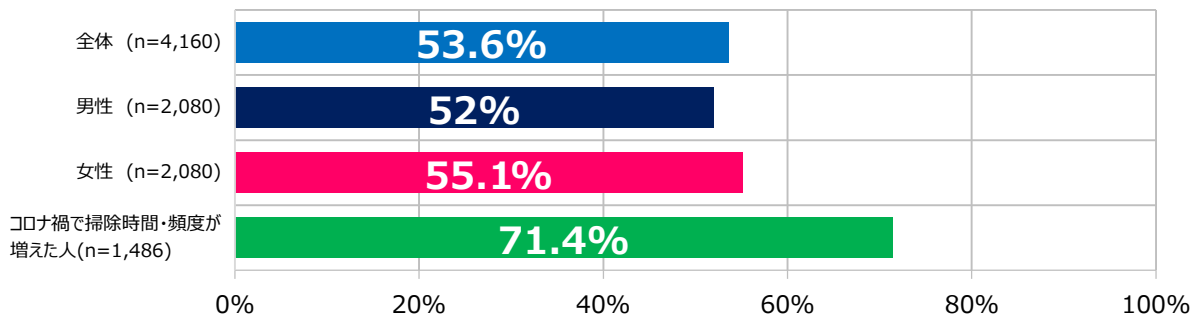
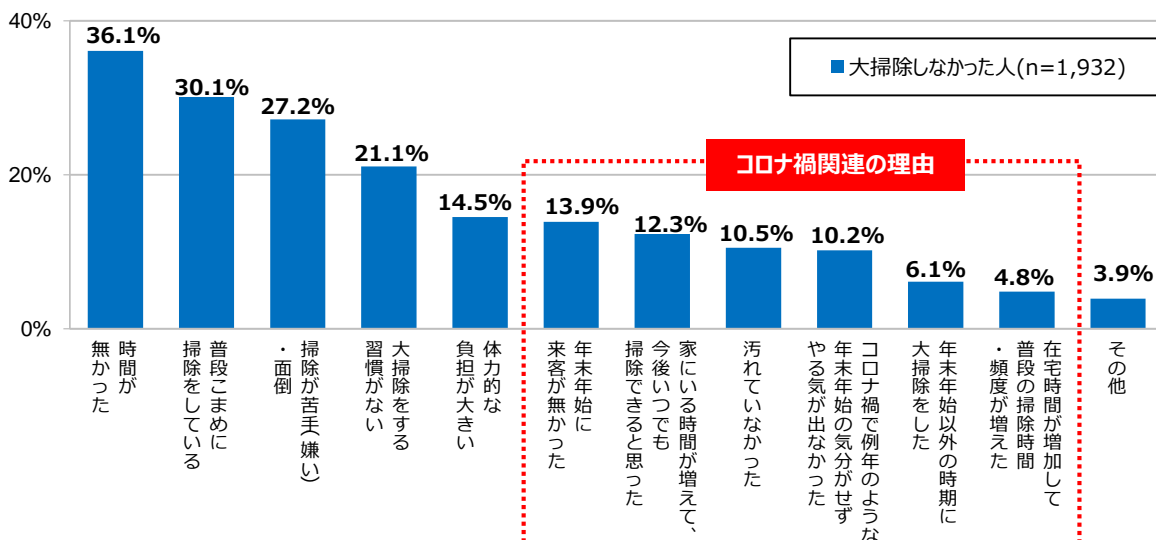


図3：大掃除をしなかった理由（複数回答）



②大掃除を実施した日、費やした日数と理由

- ・大掃除は“大晦日直前”が多数派。男性は「1日」、女性は体力負担分散のため「2日以上」で実施。
- ・コロナ禍で普段の掃除時間・頻度が増えた人ほど日数・掃除時間は長い傾向。

2020年末の大掃除実施日を聞いたところ、「**12月30日(水)**」(29.8%)、「**12月29日(火)**」(28.3%)、「**12月27日(日)**」(25.4%)の順で多く、12月最終週で実施した人は7割を超え、結果として“**大晦日直前**”が多数派でした。年末は何かと忙しく、大掃除しなかった理由の1位が「時間が無かった」だったという調査結果も出ていることから、早めに大掃除の準備をすることがお勧めです。

また、大掃除日数は「**2日間**」(27.7%)が最多で、平均2.9日間、総大掃除時間は平均8.8時間でした。**男性は「1日」(33.8%)、女性は「2日」(25.0%)が最多**で、2日間以上だった理由の女性の1位が「身体に負担をかけずに少しずつ大掃除をしたかった」(36.4%)だったことから、**女性は大晦日直前の短期間でも体力的な負担を考えて2日以上に分散して大掃除に取り組んでいる**と推測できます。

また、コロナ禍で普段の掃除時間・頻度が増えた人は、平均3.1日間、総大掃除時間は平均9.8時間と全体水準より高い結果となり、取り組み具合も高い衛生意識が影響していると思われます。

図4：大掃除を実施した日(上位5日)

1位	12月30日(水)	29.8%
2位	12月29日(火)	28.3%
3位	12月27日(日)	25.4%
4位	12月28日(月)	20.0%
5位	12月26日(土)	19.7%

(2020年末に大掃除した人 n=2,228)

図5：日数・総大掃除時間(属性別平均)

属性	日数	総大掃除時間
全体(n=2,228)	2.9日	8.8時間
男性(n=1,081)	2.4日	7.9時間
女性(n=1,147)	3.4日	9.7時間
コロナ禍で掃除時間・頻度が増えた人(n=1,061)	3.1日	9.8時間

図6：大掃除に費やした日数(上位3日)

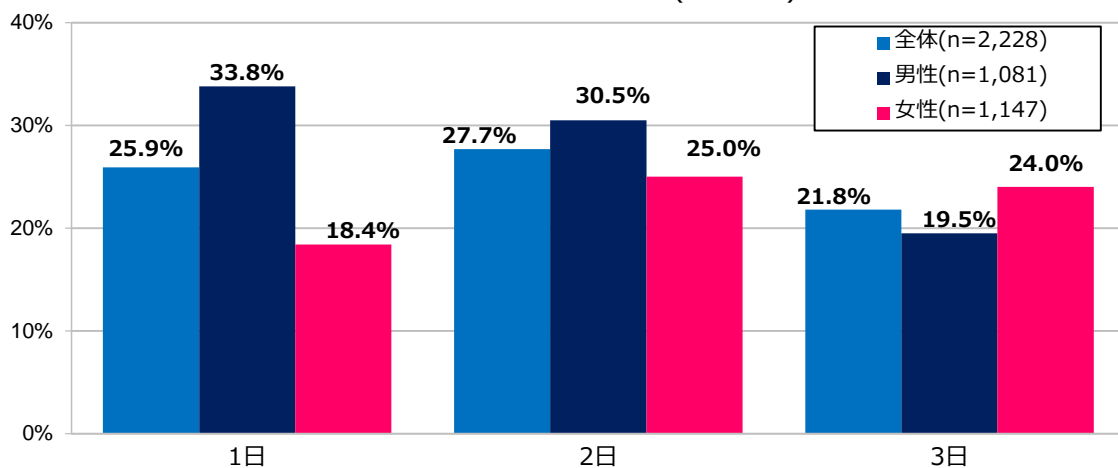
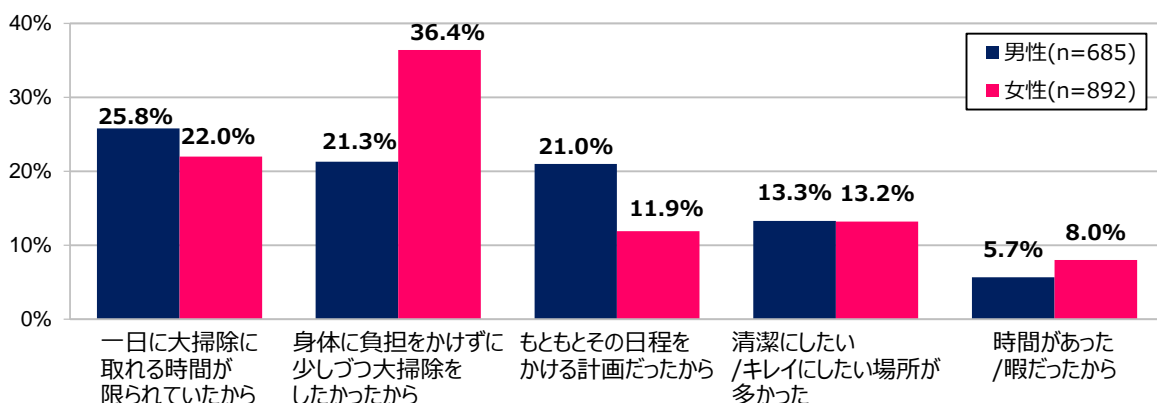


図7：大掃除に「2日以上」費やした理由(上位5項目)



③ 大掃除で最も苦戦した場所とコロナ禍で注力して掃除した場所

- ・苦戦場所は「レンジフード・換気扇」が12年連続1位！
- ・「レンジフード・換気扇」掃除をプロに依頼した人のうち、86.9%が満足と回答！

2020年末の大掃除で「最も精力的に掃除した場所」、「最も汚れが落ちにくかった場所」は、12年連続で「レンジフード・換気扇」が1位でした。「レンジフード・換気扇」は高所にあり、内部の汚れに気づきにくいいためか日頃はなかなか掃除がしづらい場所です。しかし油汚れを放っておくと酸化したり樹脂化してますます落としにくくなり、内部が汚れることで換気機能が低下して室内の壁や床がべたついてしまうこともあることから、1か月に1回はフィルターを交換するなど内部の汚れを予防する対策をしましょう。そして1年に1回はプロに掃除を依頼するなどして汚れをしっかりと落とすことがお勧めです。実際に「レンジフード・換気扇」の掃除をプロに依頼した人は「自分では掃除できない場所が掃除できた」などを理由に86.9%が依頼に満足しているという結果が出ています。

いずれかの場所の大掃除をプロに依頼する人は2012年から2020年の8年で5%増加しています。家族で楽しく大掃除に取り組みつつも、毎年苦戦する場所や苦手な場所の掃除は早めにプロに依頼するなど、今年はずいぶんプロのサービスを活用してみましょう。

図8：「最も精力的に掃除した場所」と「最も汚れが落ちにくかった場所」(上位6か所)

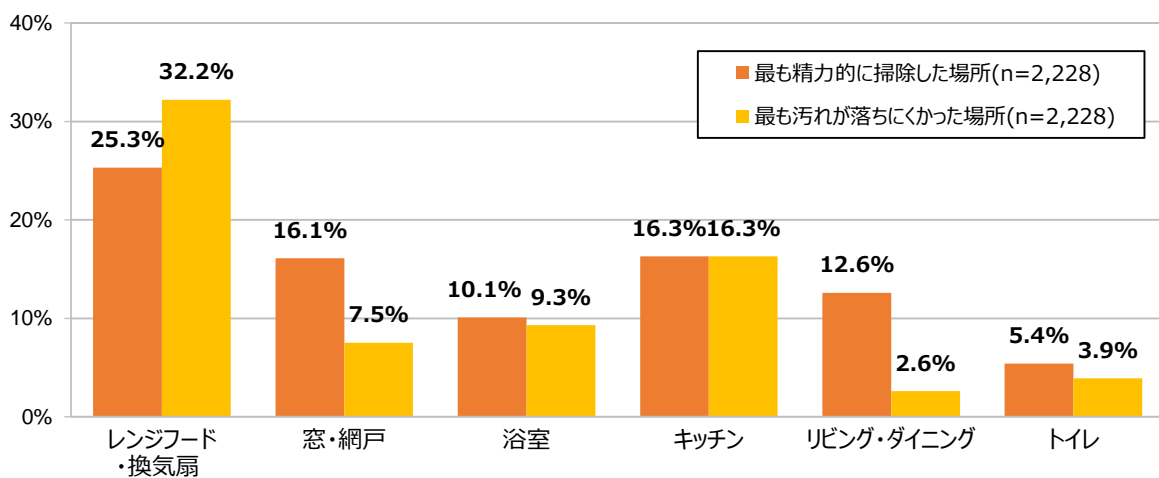


図9：「レンジフード・換気扇」掃除をプロに依頼して満足した理由

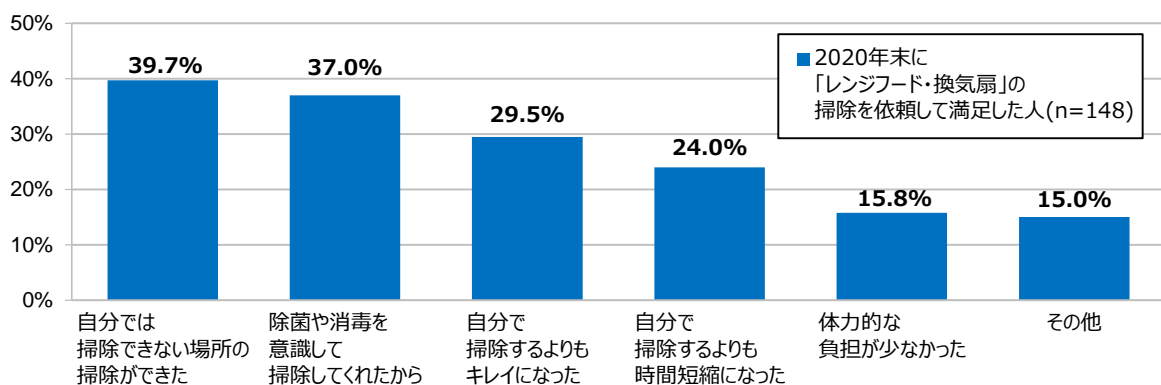
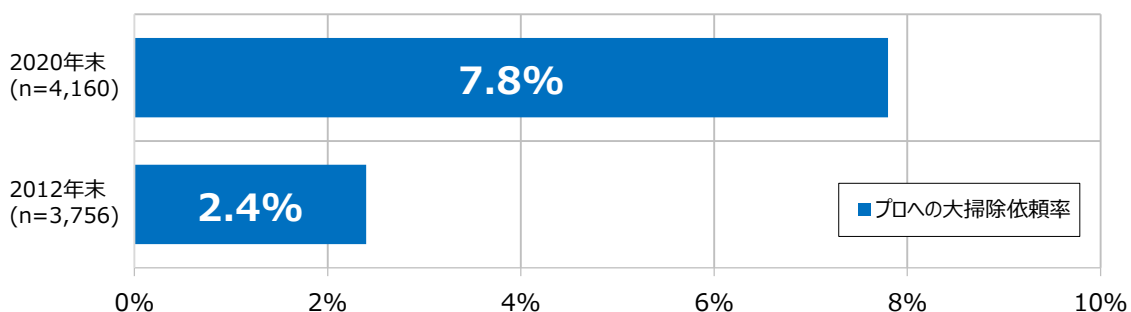


図10：プロへの大掃除依頼率(2012年末・2020年末)



③ 大掃除で最も苦戦した場所とコロナ禍で注力して掃除した場所

- ・コロナ禍で注力した掃除場所1位は「トイレ」。コロナ禍で普段掃除が増えた人ほど高水準で実施。
- ・「トイレ」を注力掃除した94.2%が「除菌アイテムを使うようになった」など、衛生対策のための変化を実感！

コロナ禍を受けて注力して掃除した場所では、感染対策のためや在宅時間が増えたことで使用回数や頻度が増えた「トイレ」「浴室」「リビング・ダイニング」「キッチン」が上位に挙げられ、いずれの場所もコロナ禍で普段の掃除時間・頻度が増えた人ほど高い水準となり、衛生意識が高いことがうかがえます。

中でも「トイレ」を挙げた人の94.2%が例年の大掃除との変化を実感しており、具体的には「**除菌アイテムを使うようになった**」「**ウイルス・菌など目に見えない汚れも気にするようになった**」「**換気する回数が多くなった**」など**衛生対策のための取り組みが上位**に挙げられました。コロナ禍2度目の年末大掃除を前に、ぜひ大掃除のシーンでの衛生対策を今一度考え、除菌アイテムの準備などは早めに行っておきましょう。

図11：コロナ禍で注力して大掃除した場所(上位8か所)

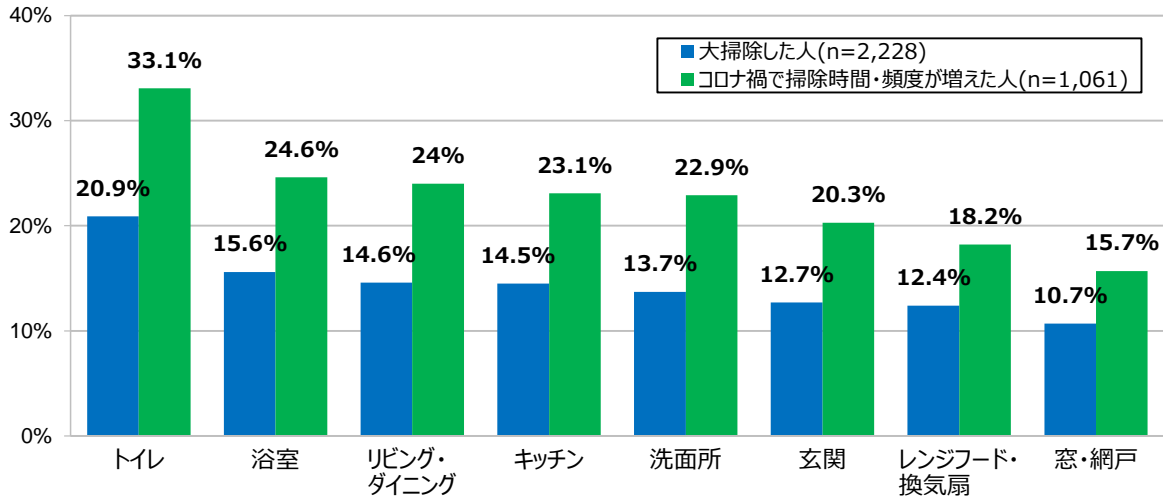


図12：「トイレ」掃除に注力した人に聞く、例年の大掃除から変化したこと(上位6項目)

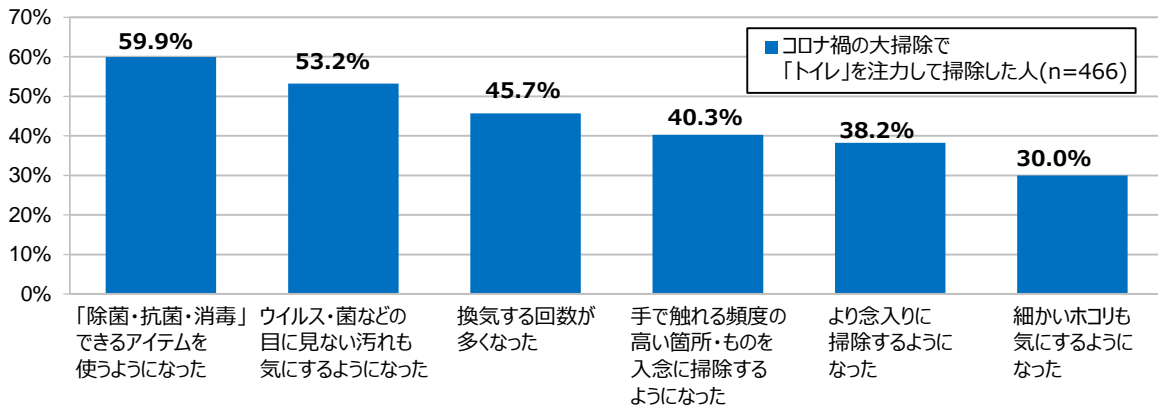


図13：コロナ禍で、例年の大掃除から変化したこと(自由回答)

【除菌・消毒】

- ウイルスも持ち込まないように清潔にする意識が高くなった。部屋の除菌頻度も多くなった。(男性/30歳)
- 除菌ペーパーなどを使い、除菌を意識した。(男性/45歳)
- 使用できる場所には最終仕上げをアルコールで行った。(女性/32歳)
- この年末は除菌商品を数種類準備して使った。(女性/60歳)

【在宅時間増加】

- 普段から掃除を気にするようになり、いつもよりも大掃除が簡単に済んだ(女性/40歳)
- 在宅時間が長かったので大掃除に時間をかけられるようになった(女性/29歳)
- 例年仕事で大掃除ができなかったが、在宅時間が増え、休業の時は掃除を試みる余裕があった。(女性/47歳)

【マスク・手洗い】

- 苦しかったがホコリを吸わないようにずっとマスクを付けていた。(男性/59歳)
- 掃除中でもよく手を洗うようにした(女性/52歳)

【手が触れる場所】

- ドアのノブ、水道の蛇口、スイッチ等手で触れる箇所を念入りに掃除した。(男性/71歳)
- ドアノブやインターフォンなど、人が良く触る場所は念入りに拭いた。(女性/43歳)

④ 夫婦の大掃除満足度と「イラっとしたエピソード」

- ・大掃除満足度は夫婦間で23%ものギャップが！「積極的な姿勢」が満足度UPの鍵
- ・コロナ禍2度目の年末大掃除で教訓にしたい「大掃除で配偶者にイラっとしたエピソード」公開

2020年末の大掃除で、配偶者の大掃除の取り組みに対する満足度を聞いたところ、**夫の妻への満足度が92.0%だったのに対し、妻の夫への満足度は69.0%と、夫婦間で23%もの開き**がありました。また、満足した理由の1位2位は夫婦ともに「積極的に取り組んでくれたので」「きちんと汚れが落ちたので」である一方、夫の3位は「手際が良かったので」、妻の3位は「自分や他の家族では掃除が難しい箇所を担当してくれたので」と、**評価のポイントが夫婦で異なることが満足度に差が生まれた要因**だと考えられます。ぜひ夫は積極的な姿勢で「レンジフード・換気扇」や「窓・網戸」など妻や子どもでは掃除が難しい高所を、妻は手際よく時間通りに終わる得意な場所を担当するなど、分担することが夫婦円満の秘訣と言えそうです。

2021年末はコロナ禍2度目の年末大掃除を迎えます。2020年末の大掃除で配偶者の言動に少しムツとした／イラっとしたエピソードを教訓に、ぜひ家族や夫婦で仲良く分担して年末大掃除に取り組んでみてはいかがでしょうか。

図14：配偶者の大掃除の取り組みに対する満足度

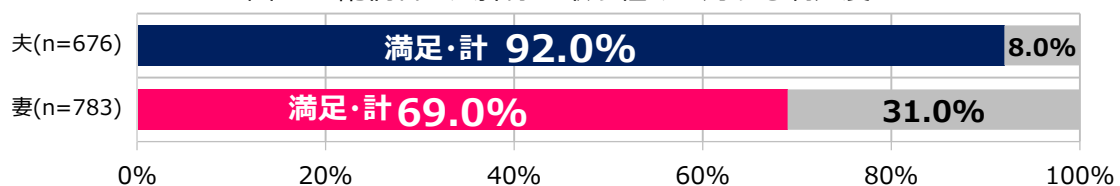


図15：配偶者の大掃除の取り組みに満足した理由

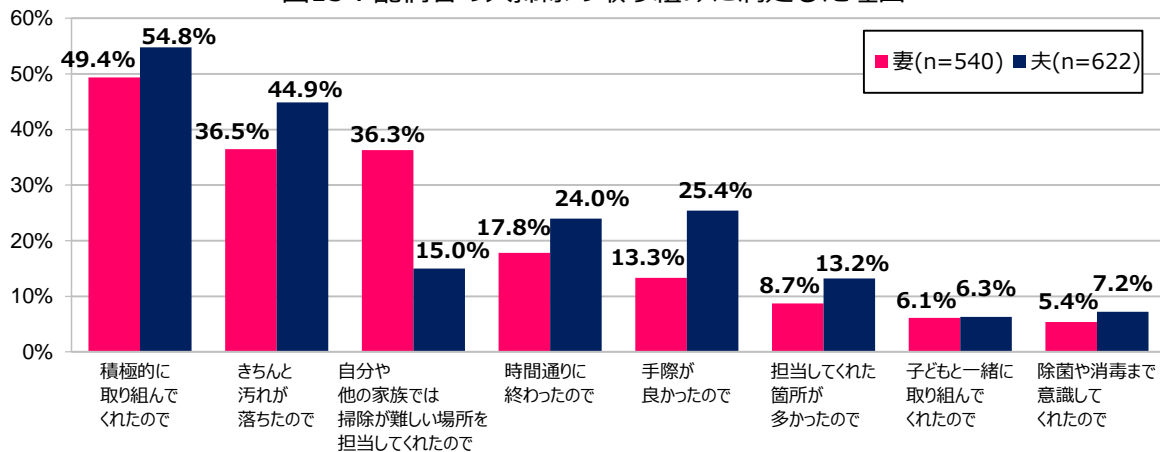


図16：配偶者の大掃除での言動にイラっとしたエピソード

【夫にイラっと】

- 丁寧なのはありがたいが、1か所にかかる時間が長もう少し要領よくしてほしい。(女性/30歳)
- 自分の家なのに掃除を手伝っているという感覚なのが嫌。(女性/32歳)
- 子どもとリビング掃除をしてもソファでくつろぎ手伝おうとしなかった。目につく所にいてテレビを見ている姿に腹が立った。(女性/57歳)
- リモートワークで家に居たにもかかわらず余り手伝ってくれなかった。(女性/58歳)

【妻にイラっと】

- お互い掃除中、子供が泣いたりぐずっている時にどちらが相手をするか言い争いになった。(男性/33歳)
- 不要品を捨てる時に、一個一個捨てるまでの時間がかかり過ぎていてイラッときた。(男性/34歳)
- 大掃除の時だけマウントをとりたがる。結果言う通りの場所を掃除させられてなんとなく気分が悪かった。(男性/55歳)
- 必要な道具や洗剤等を事前に揃えず、当日になって買いに行かされた。(男性/60歳)

【調査概要】

- 調査目的 : 2020年末の大掃除についての意識・実態把握
- 調査対象 : 20歳以上の男女
- 調査地域 : 全国(エリア区分：北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州)
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 2021年1月22日(金)～1月23日(土)
- サンプル数 : 4,160サンプル

※全データに対してn数30未満のものは参考値として記載